

# 新大病院たより 和

第35号

(標題：中野雄一 元病院長)

## 院内に「タリーズコーヒー新潟大学病院店」がオープン！



左／店内の様子 右上／乾杯をする島山病院長とタリーズコーヒースタッフ

外来棟 1 階の休憩スペースにコーヒーショップ「タリーズコーヒー新潟大学病院店」がオープンし、平成20年12月17日(木)に関係者の出席による盛大なオープニングセレモニーが行われました。タリーズコーヒーの病院内出店は、全国で14番目となりました。

この出店は、「病院内にコーヒーを飲めるようなくつろげる場所があればいいなあ」という患者さんやご家族のみなさんからの要望を受け実現したもので、店舗内は、病院施設であるという配慮から、カウンターやテーブルの角には丸みが付けられ、レジには点字メニューが用意されるなど細かいところにも心配りがされています。

セレモニー当日は、島山病院長をはじめ、病院関係者、タリーズコーヒー関係者が出席し、病院長らの挨拶とスタッフの自己紹介などの後、配られたコーヒーカップを手に乾杯が行われました。セレモニー後の営業開始には、オープンを待ち望んでいた患者さんたちの長い行列ができました。

テイクアウトももちろん可能ですが、店舗前の共有スペースやテラス席では、患者さんやご家族のみなさん、お見舞いの方々など、コーヒーとともにくつろぎのひと時を過ごすことができますので、本院へお越しの際は、気軽にお立ち寄りください。

【営業時間】 月曜～金曜 7：30～18：00 ※土日祝日は休み

# 院 内 行 事 ・ イ ベ ン ト

## ● 新大教育学部の学生によるオペレッタ♪

日時：平成20年11月29日(土) 14:00～、16:00～

場所：病棟大会議室

「患者さんを元気付けたい！」と新大教育学部の学生さんたちが迫真の演技で会場を魅了しました。



## ● クリスマスイルミネーション点灯！

期間：平成20年12月2日(火)～平成21年1月10日(土)

場所：本院入退院玄関前の広場

夜空に灯る温かい光で患者のみなさんが癒されることを願い、財団法人協和会の協力のもと、毎年実施しています。

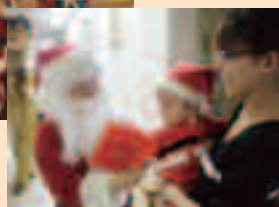
12月2日に行われた点灯式では、入院患者の子ども達がスイッチを押すと一斉にイルミネーションが点灯し、集まった人々からは歓声と拍手が沸き上がりました。

## ● クリスマスコンサート開催♪

日時：平成20年12月15日(月) 17:00～

場所：病棟大会議室

医師・看護師・学生によるコーラスなどで、一足早い聖夜のひとときが催されました。患者さんへは医師によるバルーンアートの作品がプレゼントされ、大変喜んでいただきました。



## ● 病棟にサンタさんが訪問！

日時：平成20年12月19日(金) 13:00～

場所：各病室

入院患者のみなさんに少し早めのクリスマス気分を楽しんでいただくため、病院のスタッフがサンタやトナカイに扮装し、各病室を巡ってクリスマスプレゼントを手渡しました。

特に小さいお子さんはサンタの登場に大喜びで、一緒に記念写真を撮っていました。

新大病院たより「和」のバックナンバーは本院ホームページ  
([http://www.nuh.niigata-u.ac.jp/byouin/08\\_koho.html](http://www.nuh.niigata-u.ac.jp/byouin/08_koho.html)) をご覧下さい。

発行 新潟大学医歯学総合病院広報委員会

(お問い合わせは総務課総務係 電話 025-227-2407,2408まで)

## 中央診療施設紹介 ⑥

### インプラント治療部

最近"歯科インプラント"という言葉を目にする機会が増え、興味をお持ちの方が多いと思います。歯科インプラントとは人工歯根のことです。自分の歯が失われた場合に、従来のブリッジや入れ歯ではなく、顎の骨に直接チタン製のネジ（インプラント）を埋め込み、その上に冠をかぶせることによって物を咬む機能や見た目を回復する方法です（写真 中央の歯）。時には義歯の支えとしてインプラントを用いることもあります。

本院でも、歯科インプラントによる治療を専門に行うインプラント治療部が2006年4月に中央診療施設として設置されました（歯科診療棟3F）。インプラント治療そのものは、それまでにもスタッフが診療班を組んで、10年以上にわたって行って参りましたが、本治療部の発足によって、さらに専門的な英知を集約し、より良いインプラント治療を提供することが可能となっています。現在、専任3名と兼任9名のスタッフで本治療部の運営を行なっています。

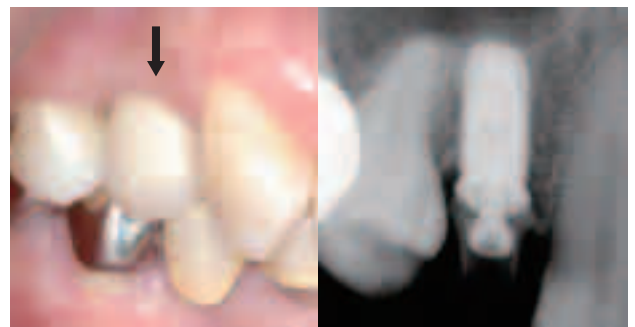
当治療部には年間約200名の患者さんが新規に来院され、年々増加しています。残念ながらインプラント治療には健康保険が適用されません。従いまして、インプラントに関する相談や、X線写真撮影に対しても、自費で料金をご負担頂く必要がありますので、

予めご了承下さい。

近年、インプラント治療の信頼性が飛躍的に向上したとはいえ、その成功率は約95%とされています。本院ではインプラント治療をご希望の患者さんに対して、CT撮影などの必要な検査を行ない、総合的な診療計画、インプラントを埋め込む部位、本数、長さなどを慎重に検討して、最終的に患者さんにとって最適なインプラント治療となるよう、スタッフ全員で努力しております。通常入院は必要ありませんが、骨の移植が必要な場合などには入院をお勧めする場合があります。決して夢の治療ではなくなった歯科インプラントに興味をお持ちでしたら、お気軽にお問い合わせ、ご相談いただければと思います。

インプラント治療部（電話025-227-0385）

（インプラント治療部 星名秀行、魚島勝美）



## 病気の基礎知識

### 6

### 難聴について

耳は大きく分けて外耳・中耳・内耳の3つの部分からできています。外耳は耳介・外耳道（耳の穴）からなり、中耳は鼓膜とその内側にある小さな空間で、耳小骨（音を伝える3つの小さい骨）により内耳に鼓膜の振動（音）を伝えています。内耳は神経の部分で、音を感じる蝸牛（カタツムリ）と体のバランスを感じる器官があります。そこで音の振動を電気信号にかえて最終的には脳で音や言葉を聞き分けています。難聴はこの音の伝わる経路のどこが障害されても起こります。

外耳から中耳にかけての音を伝える部分の障害で起こる難聴を「伝音難聴」、内耳の蝸牛や脳に至るまでの音を感じる部分の障害で起こる難聴を「感音難聴」、そのいずれにも障害がある場合を「混合難聴」といいます。伝音難聴の代表は、耳垢（みみあか）、鼓膜の奥の中耳に滲出液がたまる滲出性中耳炎、中耳炎の後遺症として鼓膜に穴があく慢性中耳炎があります。感音難聴は、加齢によって難聴が進行する老人性難聴、あるとき急に聞こえなくなる突発性難聴などがあります。伝音難聴の多

くは、手術治療により治すことが可能です。感音難聴は急に起こった場合はお薬の治療で治る場合があります。高度な難聴で、手術やお薬の治療で改善できない場合には、補聴器を合わせることもあります。いずれにせよ正確な診断が重要です。

ひとことで難聴といっても、その原因や対応はひとそれぞれ異なってきます。聞こえが悪くて補聴器を合わせていた方が、実は手術で治すことができた難聴で、もっと早く耳鼻咽喉科に受診していれば・・・という例も時に見受けられます。当院耳鼻咽喉科ではかかりつけ医からの紹介患者さんの診察を行い、手術で治せる中耳伝音系の難聴の聴力改善手術や赤ちゃんからお年寄りまで、より高度な難聴の診断と治療を行っています。難聴の診断・治療には、まず耳の診察と聴力検査が必須で、また急に起こった難聴は早期診断・治療が重要になります。聞こえが悪くてご不自由をされている方は、まずはお近くの耳鼻科専門医の診察をお勧めいたします。

（耳鼻咽喉科総括医長 和田匡史）

## 「新型インフルエンザ」について

感染管理部 副部長 田邊 嘉也

インフルエンザは急性のウイルス感染症で発熱、関節痛等で発症し、多くの患者は数日で解熱し軽快しますが、時に重症となり生命を脅かすこともあります。インフルエンザウイルスは常に変化し毎年のように流行します。通常は小さな変化であり、予防のためのワクチンの接種により免疫を高め対抗することができます。

ところが、最近話題となっている「新型インフルエンザ」は別物です。人間に免疫が備わっていないため、世界的な大流行となり高い死亡率を伴う可能性があります。これまでも1918年のスペインかぜ、1957年のアジアかぜ、1968年の香港かぜといわれた新型インフルエンザの大流行がありました。そして、香港かぜから40年が経過しており多くの専門家が「近い将来確実に大流行する」と警告しています。

新型インフルエンザは動物、特に鳥類のインフルエンザウイルスが人に感染し、人の体内で増えることができるように変化し、人から人へと効率よく感染できるようになったウイルスが感染して起こる疾患と定義されます。現在、東南アジアを中心とした地域で鳥の間に鳥インフルエンザが流行しており、中でもH5N1亜型ウイルス※の流行が深刻で制圧が困難な状況にあります。ニフトリやカモが死亡するような重篤な症状をきたすことがあり、高病原性鳥インフルエンザと名付けられています。そして、この高病原性鳥インフルエンザが新型インフルエンザに変異することが懸念されておりますが、これまで東南アジアなどでの事例では、鳥から人への感染伝播あるいは人から人への感染は限局的とされております。



現時点では、いつ、どのような新型のインフルエンザが出現するかわかりませんが、過度に恐れるのではなく正確な情報を入手し、私達人一人一人ができることを着実にやっていくことが大切です。以下に注意点を示します。

インフルエンザは、一般的に感染した人の咳、くしゃみ、つばなどの飛沫とともに放出されたウイルスを吸入することによって感染します。そのため、外出後の手洗い、マスクの着用、流行地への渡航、人混みや繁華街への外出を控えること（不要不急の外出の自粛）が重要です。また、十分に休養をとり、体力や抵抗力を高め、日頃からバランスよく栄養をとることも大切です。

また、インフルエンザは容易に人から人に感染するため、他人にうつさないことも重要です。インフルエンザに感染して症状のある人は、病気の悪化や周囲への感染を防ぐために、自宅で休養することが重要です。他人に接しなければならぬ場合は、咳やくしゃみをする際にはティッシュで口元を覆うか、マスクを着用することが重要です（咳エチケット）。

以上、新型インフルエンザについて簡単に紹介させていただきました。

※インフルエンザは外側にエンベロープという殻をもっており、その表面には細胞に吸着する成分であるヘマグルチニン（H）と細胞からはなれるときに必要なノイラミニダーゼ（N）をもっています。この二つの成分の違いからH1、H2・・・、N1、N2・・・のような亜型に分けられています。

